

モノオペラ「焼き場に立つ少年」公演&岡本静子リサイタル

モノオペラ「焼き場に立つ少年」公演は、昨年11月19日、取手市民会館大ホールにて、我孫子市・我孫子市教育員会、取手市・取手市教育委員会の後援により、400余名の来場のもとに開演し、売上金の一部を「ウクライナ人道危機支援金」に寄付いたしました。



モノオペラは、原爆が1945年8月9日に長崎に投下された直後に、米軍カメラマンの従軍カメラマン故ジョーオダネル氏が撮影した写真を、作曲家故青英権氏が、生き途絶えた弟を背負い直立不動で火葬の順番を待つ少年の弟への愛や死を悼む悲痛な心情を基に作曲された曲です。

ローマ教皇フランシスコは、長崎原爆投下の少年の姿に心を痛み、「焼き場に立つ少年」の写真をカードにして「戦争がもたらすもの」との教皇自身の署名と「血がにじむほど唇を噛み締めて、やり場のない悲しみを表しています」とのメッセージカードを、全世界のカトリック関

係者に配布を支持されました。この写真をモチーフに作詞、作曲された、モノオペラ焼き場に立つ少年を次世代に伝えるため、我孫子市、取手市の有志が集まり【モノオペラ『焼き場に立つ少年』を次世代に伝える会】を2019年11月に立ち上げ、2019年我孫子市主催の【平和の集い】での公演、2020年からは毎年、我孫子市の【市民のチカラまつり】にYouTubeへの参加をして参りました。

会の目的は、当たり前の生活が出来る平和の大切さを、次世代を担う中学生に伝えるために、モノオペラをブルーレイディスクに収録し、中学校の教材に採用して頂くことです。

会員は、2022年12月末現在128名が在籍しております。



モノオペラ「焼き場に立つ少年」歌う  
ソプラノ歌手: 岡本 静子